

# 肝属川水系河川整備基本方針変更の概要

---

令和7年9月25日

○気候変動のスピードに対応した新たな抜本的対策を行うため、以下の取組を実施。

- ・ 本川下流のみならず上流や支川などの中小河川も含め、**流域全体**で、国、都道府県、市町村、地元企業や住民などの**あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」**を本格的に実践。
- ・ 温暖化の影響をあらかじめ治水計画に反映し、中長期的かつ計画的に整備を進めることとし、**順次、ハード整備の長期計画である河川整備基本方針を見直し、治水対策の強化**を行う。
- ・ ハード整備の長期計画である河川整備基本方針は、近年の洪水で大きな流量が発生等の27水系において、気候変動による降雨量の増加を考慮した見直しを完了。引き続き、各水系において見直しを推進。

## 「流域治水」の本格的実践

流域治水プロジェクトを策定し、本格的に現場レベルの取組を実施中



あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」

令和3年3月に全国109の一級水系において「流域治水プロジェクト」を策定・公表。二級水系では全国600※水系(R6.3末時点)で策定・公表。

今後、流域治水関連法に基づく特定都市河川の指定拡大を目指し、全国の一級水系・二級水系を対象に指定のロードマップを公表し、指定を進め流域対策を強化。

※河川整備計画を策定済みの水系のみ集計

### ①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

治水ダムの建設・再生  
河道掘削、引堤 等

### ②被害対象を減少させるための対策

土地利用規制、誘導、  
移転促進 等

### ③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

水害リスク情報の  
空白地帯解消  
長期予測の技術開発 等

## 気候変動の影響を踏まえた治水計画の見直し

近年の洪水で大きな流量が発生等の水系から、気候変動による降雨量の増加を考慮した見直しに着手。引き続き、各水系において見直しを推進。

現在(R7.3末時点)で合計27水系の見直しを実施。

### 地域区分毎の降雨量変化倍率(2℃上昇)

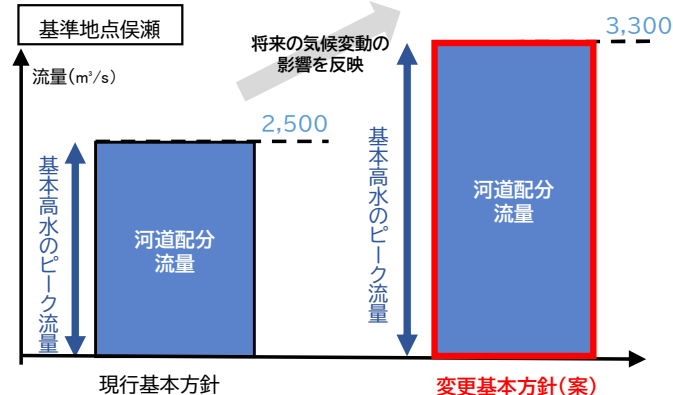
|            |      |
|------------|------|
| 全国(北海道を除く) | 1.1  |
| 北海道        | 1.15 |

※出典：「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」  
提言 改訂版(令和3年4月)



### 気候変動を踏まえた基本高水の例【氾濫防止のための施設整備の長期目標の流量規模】

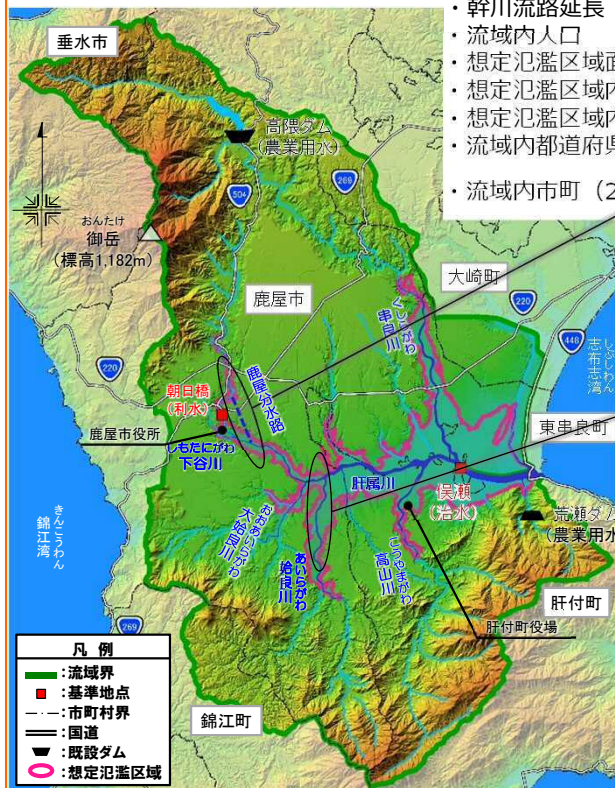
#### ■肝属川



# 「肝属川水系河川整備基本方針(案)」変更の概要 ～流域の概要～

肝属川水系

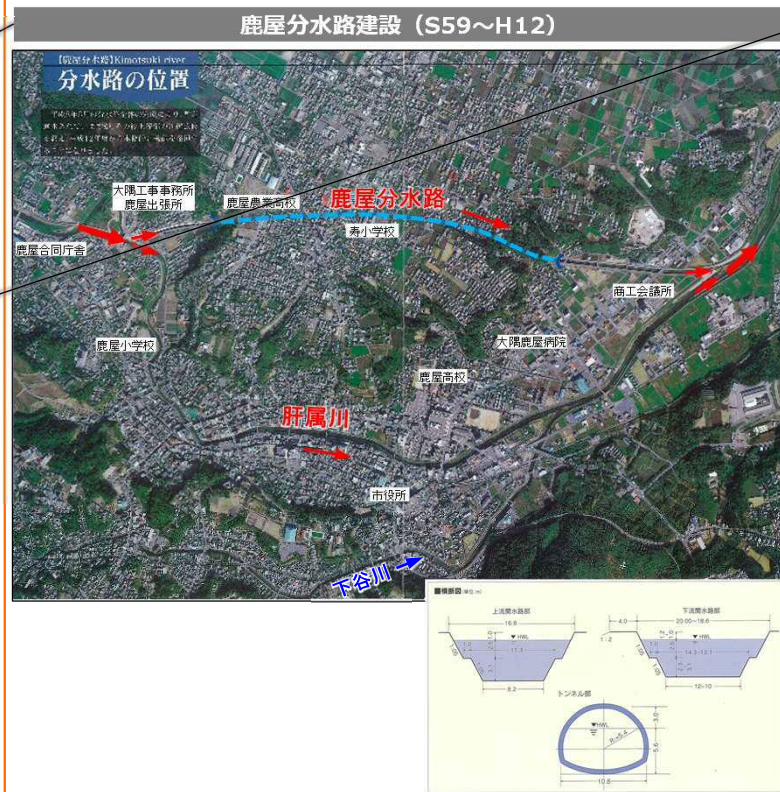
## 流域図(肝属川)



- 流域面積(集水面積) : 485km<sup>2</sup>
- 幹川流路延長 : 34km
- 流域内人口 : 約12万人
- 想定氾濫区域面積 : 約59km<sup>2</sup>
- 想定氾濫区域内人口 : 約1.6万人
- 想定氾濫区域内資産額 : 約3,400億円
- 流域内都道府県 : 鹿児島県
- 流域内市町(2市4町) : 鹿屋市、垂水市、肝付町、東串良町、大崎町、錦江町



## これまでの治水対策



## 河道掘削 (H24~)



## 主な洪水被害

- 昭和51年6月洪水(梅雨前線)  
家屋全・半壊35戸、浸水家屋187戸

鹿屋市内(下谷川0.2k付近右岸)  
浸水状況



- 平成17年9月洪水(台風第14号)  
家屋全・半壊6戸、浸水家屋553戸

肝付町内(肝属川8.0k付近右岸)  
浸水状況



- 令和2年7月洪水(梅雨前線)  
浸水家屋133戸

鹿屋市内(肝属川23.7k付近右岸)  
浸水状況



流量

基準地点俣瀬

将来の気候変動の影響を反映

2,500

河道配分流量

基本高水のピーク流量

3,300

河道配分流量

基本高水のピーク流量

現行基本方針

変更基本方針(案)

※基準地点俣瀬の計画規模1/100は踏襲

**【現行】**

鹿屋分水路  
200→  
朝日橋  
高良橋  
800 ↓ 串良川  
豊栄  
肝属川 400→ 200→ 1,400→ 2,500→ 志布志湾  
王子橋  
390 ↑ 大始良川  
700 ↑ 始良川  
1,100 ↑ 高山川  
高山橋  
俣瀬  
河口

単位 $\text{m}^3/\text{s}$   
■：基準地点  
●：主要な地点

|    | 基本高水のピーク流量<br>( $\text{m}^3/\text{s}$ ) | 洪水調節施設による調節流量<br>( $\text{m}^3/\text{s}$ ) | 河道への配分流量<br>( $\text{m}^3/\text{s}$ ) |
|----|-----------------------------------------|--------------------------------------------|---------------------------------------|
| 俣瀬 | 2,500                                   | 0                                          | 2,500                                 |

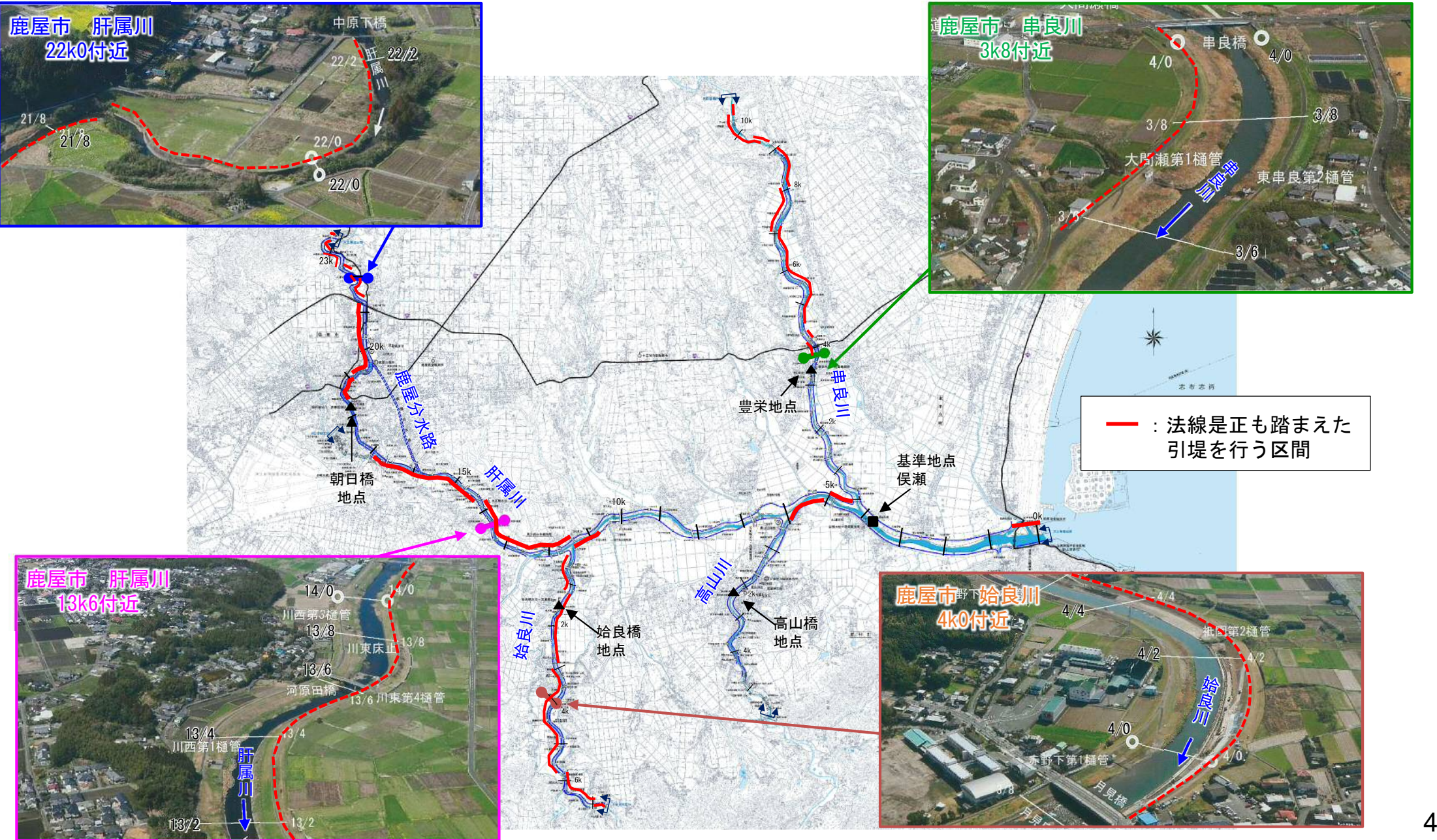
**【変更(案)】**

鹿屋分水路  
300→  
朝日橋  
高良橋  
1,100 ↓ 串良川  
豊栄  
肝属川 500→ 200→ 2,000→ 3,300→ 志布志湾  
王子橋  
390 ↑ 大始良川  
1,100 ↑ 始良川  
1,100 ↑ 高山川  
高山橋  
俣瀬  
河口

単位 $\text{m}^3/\text{s}$   
■：基準地点  
●：主要な地点

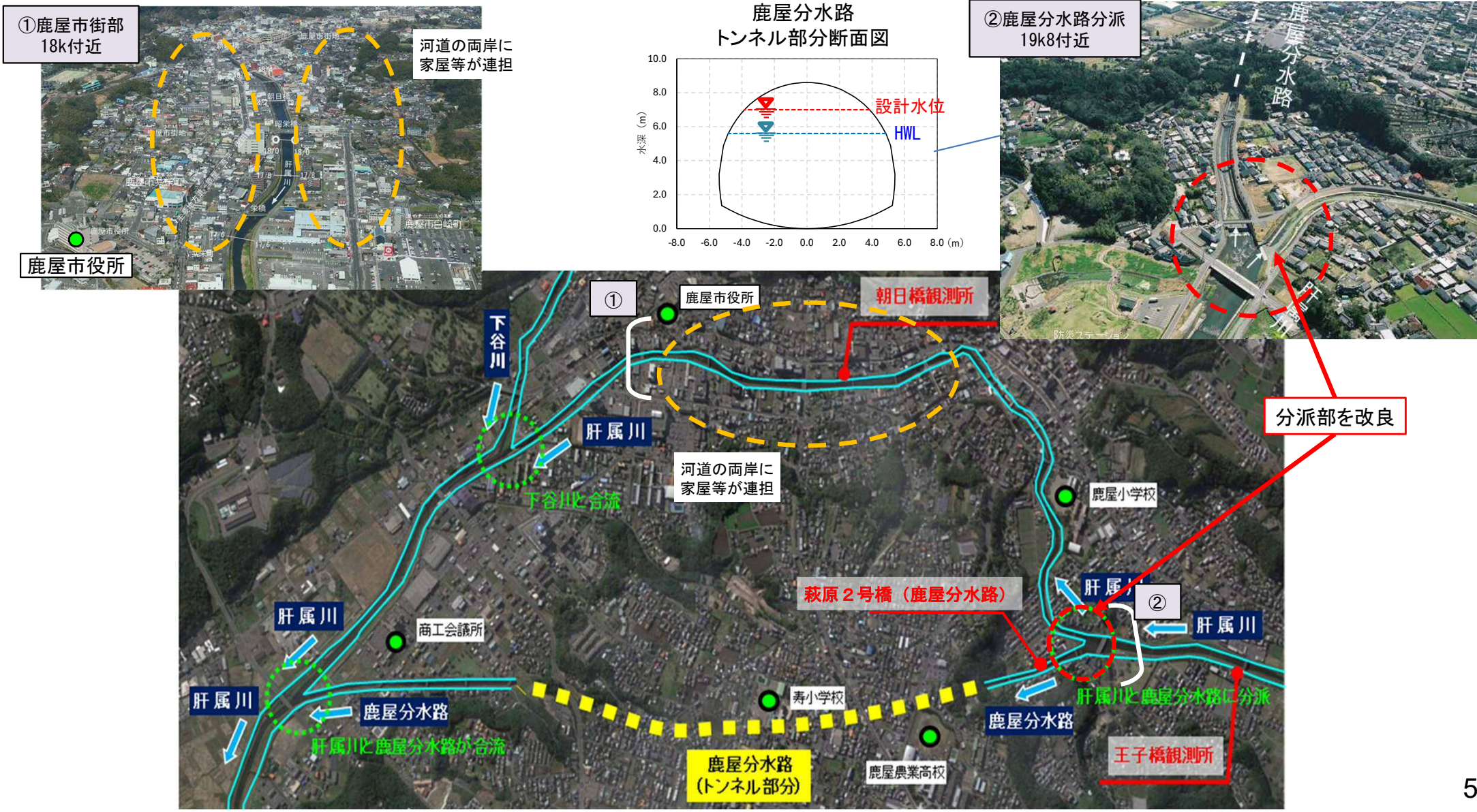
|    | 基本高水のピーク流量<br>( $\text{m}^3/\text{s}$ ) | 洪水調節施設等による調節流量<br>( $\text{m}^3/\text{s}$ ) | 河道への配分流量<br>( $\text{m}^3/\text{s}$ ) |
|----|-----------------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------|
| 俣瀬 | 3,300                                   | 0                                           | 3,300                                 |

- 既設構造物への影響を考慮して従来の計画河床高程度までを基本とし、全川にわたって掘削を行う。
- 河積が十分確保できない区間については、堤防の安全性や河川利用状況を考慮した上で、低水路の拡幅、法線是正も踏まえた引堤を実施する。
- これにより基準地点俣瀬3,300m<sup>3</sup>/s相当の流下能力確保が可能なことを確認した。



# 河道配分流量の設定 市街地(鹿屋市)

- 流下能力の不足する鹿屋市街部は、河道の両岸に商業施設や住宅が連担しているため、引堤は社会的影響が大きいことから、鹿屋分水路への分派量増大の可能性を検討した。
- 鹿屋分水路については、実績の流量や水位データに基づく流下能力の評価を行った結果、分派部を改良することにより、既定計画の200m<sup>3</sup>/sから300m<sup>3</sup>/sへ分派量の増大が可能なことを確認した。
- これにより基準地点俣瀬3,300m<sup>3</sup>/s相当の流下能力確保が可能なことを確認した。



# 鹿屋分水路の有効活用に関する技術検討委員会【概要】

## ■目的

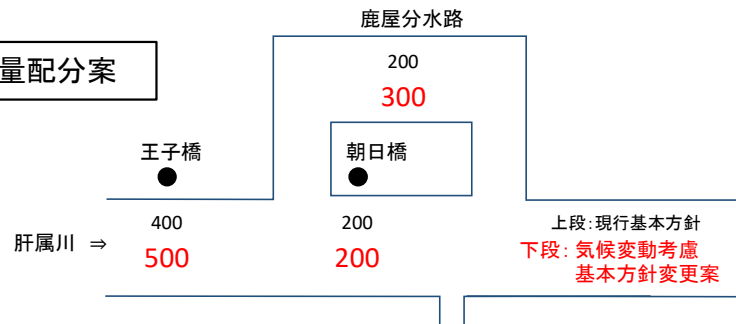
大隅河川国道事務所において検討を進めている将来の気候変動を踏まえた肝属川水系の改修計画を立案するにあたり、既存施設である鹿屋分水路を有効活用する計画案について、委員より技術的助言を得ることを目的とする

## 第1回：議事概要 [令和6年10月28日開催]

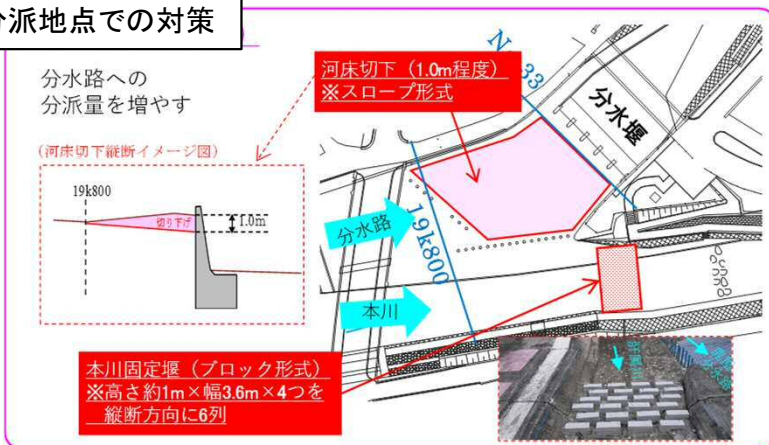
### (提示内容)

- 鹿屋分水路計画流量を、現行計画200m<sup>3</sup>/sから300m<sup>3</sup>/sに変更する  
(分水路の開水路及びトンネル流下能力は問題ないことを確認)
- 300m<sup>3</sup>/sを分派させるために分派対策を実施する

### ■計画流量配分案



### ■分派地点での対策



### (主な意見)

- 流木による分派量への影響について把握し、その結果を踏まえて分派地点の流木止めスクリーンの取り扱いを決定する
- 超過洪水時のトンネル水位を確認する

## 第2回：議事概要 [令和7年1月24日開催]

### (提示内容)

- スクリーンへの流木捕捉により、分派量が低下し本川鹿屋市街部流量が増大する可能性があるため、流木止めスクリーンは撤去
- 上下流開水路で超過洪水を想定してもトンネル水位は問題ない



### 【参考】

分派対策により、中小洪水や低水時の河川流量、土砂の移動、河川環境等への影響が懸念されることから、モニタリング及び適切な管理を行う

| 流量規模 (分派前) |    | 管理上の懸念事項                                         |
|------------|----|--------------------------------------------------|
| 中小洪水       | 流況 | ○平均年最大流量の低下(洪水頻度低下)                              |
|            | 土砂 | ○土砂流入量低下※及び掃流力の低下<br>※本川への土砂分派量低下及び固定堰上流への堆積による  |
|            | 環境 | ○河床のフラッシュ頻度の低下                                   |
| 低水         |    | ○低水時流量の変化(水質、景観、動植物への影響)<br>○【分水路】トンネル内巡視可能頻度の低下 |

### (主な意見)

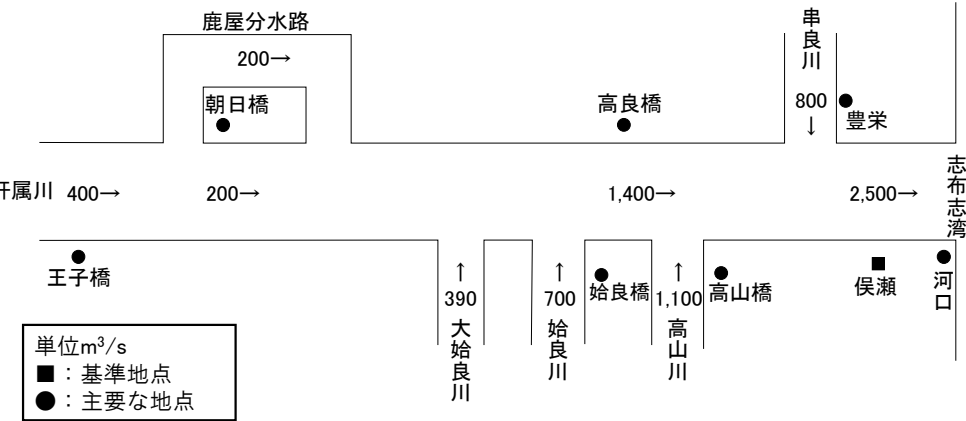
- 提示された流量配分と分派対策の方向性について、本委員会としては異議なしとし、了承する。
- 参考の内容(低水時の影響等)についても、今後適切な対応をとって頂くことで問題ない、引き続き検討して頂きたい

## 今後の検討事項

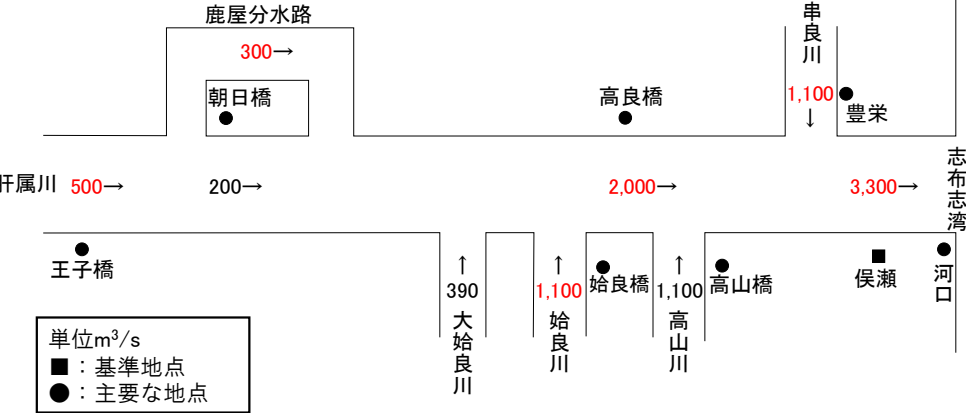
- 流木補足施設計画の検討
- 平常時(低水時)への影響のモニタリングと必要に応じた対策  
(一部対策検討は、水理模型実験により実施中)

○ 河道掘削に際しては、同一河川内の良好な河川環境を有する区間の河道断面を参考に、魚類等の生息・生育・繁殖環境の保全・創出を図るため、一律で画一的な河道形状を避けるなどの工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。

【現行】



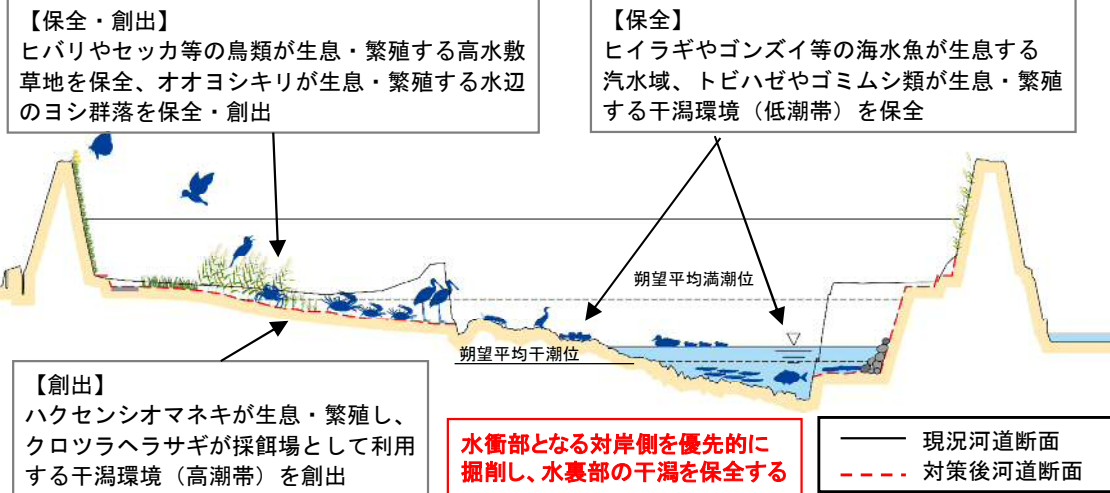
【変更(案)】



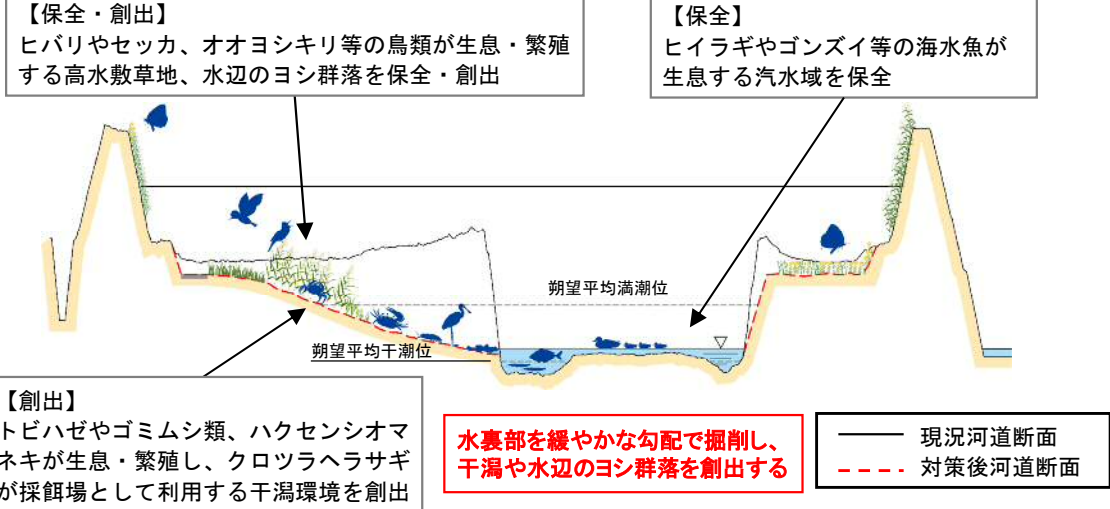
| 基本高水のピーク流量 (m³/s) | 洪水調節施設による調節流量 (m³/s) | 河道への配分流量 (m³/s) | 基本高水のピーク流量 (m³/s) | 洪水調節施設による調節流量 (m³/s) | 河道への配分流量 (m³/s) |
|-------------------|----------------------|-----------------|-------------------|----------------------|-----------------|
| 2, 500            | 0                    | 2, 500          | 3,300             | 0                    | 3,300           |

河道掘削にあたっては、目標とする汽水域・干潟の生態系に応じて掘削形状を工夫するとともに、河川が有している自然の営力を活用する。

良好な河川環境を有する区間における環境の保全・創出の概念図（肝属川1k800付近）



生息場の多様性の評価値が低い区間における環境の保全・創出の概念図（肝属川3k400付近）



掘削後もモニタリングを実施し、順応的な対応を行う。